第68号（秋期彼岸・報恩講号）

教誓寺だより

発行2021（令和３）年９月10日

法話
臨終の善悪をば申さず
小池　秀章師
龍谷大学非常勤講師

仏さまのお言葉をまことといただき、お育ていただく
聖人がおられたら

新型コロナウイルス感染症の収束が、なかなか見えない今日この頃です。多くの方が感染し、多くの方が亡くなられており、不安を感じておられる方も多いのではないでしょうか。そんな中、もし、親鸞聖人が生きておられたら、今の現実をどのように受け止められるのだろうと、ふと考えました。

親鸞聖人が88歳の時のお手紙が残されています。

このお手紙は、現存する親鸞聖人のお手紙の中、年月日が明記されている最後のものです。次のようなお言葉から始まります。

「なによりも、去年　今年、老少男女おほくのひとびとの、死にあひて候ふらんことこそ、あはれに候へ」（何よりも、去年から今年にかけて、老若男女を問わず多くの人々が亡ぐなったことは、本当に悲しいことです）

去年（1259年）、今年（1260年）は、全国的な大飢饉と疫病におそわれ、死者が多く出た年です。それに対して親鸞聖人は、まずは、「悲しいことです」と受け止めておられます。しかし、続いて、

「ただし生死無常のことわり、くはしく如来の説きおかせおはしまして候ふうへは、おどろきおぼしめすべからず候ふ」（けれども、命あるものは必ず死ぬという無常の道理は、すでに釈尊が詳しくお説きになっているのですから、驚かれるようなことではありません）

と、生まれたからには必ず死ぬという生死無常のことわりは、すでにお釈迦さまが詳しくお説きになっているから、驚くようなことではない、とあります。

少しびっくりするようなお言葉です。一つ間違えば、突き放したような、とても冷たい言葉のようにも聞こえます。しかし、この言葉は、決して冷たい言葉などではなく、生まれたからには必ず死ななければならないという事実に立って、このいのちをどのように生きていくかを問えと言われているのです。

そして、次の言葉がさらに心に響きます。

生きる方向定まる

「まづ善信（親鸞）が身には、臨終の善悪をば申さず」（わたし自身としては、どのような臨終を迎えようともその善し悪しは問題になりません）

親鸞聖人は、どのような死に方をしようと、「死に方の善悪を言わない」というのです。私たちは、ついつい死に方に善い悪いを言ってしまいます。

では、なぜ親鸞聖人は、「死に方の善悪を言わない」と言い切れたのでしょう。それを明らかにされているのが、次のお言葉です。

「信心決定のひとは、疑いなければ正定聚に住することにて候ふなり。さればこそ愚痴無智の人も、をはりもめでたく候へ」（信心が定まった人は、本願を疑う心がないので正定聚の位に定まっているのです。だからこそ愚かで智慧のないわたしたちであっても尊い臨終を迎えるのです）

信心が定まった人（本願を疑う心がない人）は、正定聚（正しく仏に成ることが定まったなかま）に入るので、尊い臨終を迎えるというのです。

浄土真宗でいう信心とは、私が信じる心ではありません。本願を疑い無く受け容れた状態のことです。もう少しわかりやすく言えば、仏さまのお言葉をまことと受け容れた状態です。仏さまのお言葉をまことと受け容れたわけですから、そのお言葉が私を正しい方向（お浄土というさとりの方向）へと、導いてくださいます。

つまり、信心が定まり、仏に成ることが定まったなかまに入るということは、今ここで、生きる方向が定まるということなのです。今ここで、生きる方向が定まった身において、初めて「死に方の善悪を言わない」という境地が開けてくるのです。

お浄土に向かう人生が定まった親鸞聖人にとって、どのような死に方をするかは問題ではなかったのです。

死の縁は無量です。どのような死に方をするかは、縁としか言いようがありません。自分の思い通りに生きることも、自分の思い通りに死ぬこともできないのが私たちなのです。だからこそ、今、ここで、仏さまのお言葉をまことといただき、仏さまにお育ていただく身にならせていただくことが大切なのです。

本願寺新報　令和３年９月１日号掲載

第68号（秋期彼岸・報恩講号）

教誓寺だより

発行2021（令和３）年９月10日

教誓寺 法要のお知らせ

新型コロナウィルスの影響が、こんなにも長く大きく私たちの生活を制限してしまうとは、思いもよりませんでした。

これからどうなるのか、予想も付きませんが、事態の収束を願うばかりです。

法要等は、現在の状況が続くと考え、感染防止対策を取った上で控えめに執り行おうと思います。

当寺では法要等で、過密状態を気にする事は、滅多に起こらないので、道中安全なら安心してお出かけ下さい。

なお、住職をはじめお寺の者は全員、コロナワクチン接種済みです。

秋期彼岸会法要

9月23日（木）秋分の日

○法要　午後2時より

ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。

御彼岸の期間は**9月20日（月）～26日（日）**です。

報恩講法要

報恩講は、浄土真宗門徒にとって最も大切な行事です。宗祖親鸞聖人の亡くなられた日を今日の暦に換算すると一月十六日になり、本山では、宗祖のご恩に感謝する「御正忌報恩講」が勤まります。

末寺では、本山の「御正忌報恩講」より前に「お取り越し」として、本山より前にお勤めいたします。

教誓寺では、十月の第四日曜日に報恩講をお勤めいたします。

記

令和3年10月24日（日）

○法要　午後一時より

○来年の浄土真宗カレンダーを差し上げます。

○お参りの時には門徒式章をご着用下さい。

今年の変更点（コロナ対策）

○他寺院の僧侶の出勤を依頼せず、教誓寺所属僧侶のみでお勤めします。

法話は、法要後に住職が行います。

○報恩講の御斎（お食事）は、取りやめます。

○本堂内では、普段生活をともにしている方以外とは、間隔を開けておかけ下さい。

○手指の消毒をお願いします。

○お互いの安心のため、マスクの着用をお願いします。

お墓の花筒交換

お盆号でお知らせした、お墓の花筒交換の件ですが、該当の方々にお知らせしたところ、沢山のお申し込みを頂きました。

この花筒は、特注品で現在は8月末までの申し込み分を製作してもらっています。お墓への取り付けには、もう少し時間がかかります。また、交換予定のお墓には、花筒の土台部分に目印を付けますので、どうぞご容赦願います。

教誓寺維持会費について

本年度も維持会費ご納入有り難うございます。これからの方も早めにお願い致します。

おたずね

9月3日に、教誓寺のゆうちょ銀行口座へ、電信振替でご送金下さった方へ、ご送金者名が不明です。

この日の送金は、この一件ですので、9月3日にご送金下さった方は、なるべく早くお知らせ下さい。

浄土真宗本願寺派　圓生山　教誓寺
108-0073
東京都港区三田　一―十二―十一
〇三（三四五一）一二二九
kyouseiji@js4.so-net.ne.jp